

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：34401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K09140

研究課題名(和文) デジタルコンテンツを利用した新たなC型肝炎患者の掘り起こしの試み

研究課題名(英文) A new screening approach for HCV patients by using digital marketing methods

研究代表者

津田 泰宏 (Tsuda, Yasuhiro)

大阪医科大学・看護学部・教授

研究者番号：30411375

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：治療を終了しているC型肝炎患者からアンケートや協力を得て掘り起こしに有効と思われる因子を抽出し、それをもとに配布物やデジタルコンテンツを作成して新規のC型肝炎患者を外来受診や治療に結びつけることを目的として研究を開始した。今回のアンケートに参加した対象者の大部分が以前から通院中の患者であったため、C型肝炎検査の受検勧奨に結びつく因子を見つけ出すことはできなかったが、患者の治療体験や感想、治療後の体調や心境の変化などのデータの収集には成功したため、それらを紹介したパンフレットを作成し、今後新しくC型肝炎治療を受ける患者や治療を迷っている患者に対して提供できるようにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

C型肝炎は治療薬の進捗にて95%以上の患者に治癒が見込めるようになったが、わが国にはまだ多くの潜在患者が存在しており、新規患者を掘り起こして治療につなげることが重要になってきている。今回の研究では新規患者を拾い上げたり、治療の必要性を感じていない人々を見つけ出す因子を明らかにすることはできなかったが、すでに治療を終えた患者の体験や感想、治療後の心境の変化などを載せたパンフレットを作成することで、治療を迷っている人に対してできるだけ治療を受けやすくするコンテンツの1つを作成することができた。

研究成果の概要(英文)：To determine the factors that lead to find untreated hepatitis C patients and recommend for antiviral treatment, we have obtained questionnaires and cooperation from patients who are completing treatment. Because most of the subjects participated in this study had been visiting the hospital before, we were unable to find any factors that lead to find new untreated patients. However, a brochure featuring their experiences and impressions of the treatment, and subsequent changes in physical and mental health was created and provided to new patients considering treatment with hepatitis C viral infection.

研究分野：肝臓病学

キーワード：C型肝炎 抗ウイルス治療 治療後の心境の変化 治療後の体調の変化 パンフレット

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

C型肝炎は治療薬の進捗にて95%以上の患者に治癒が見込めるようになったが、わが国にはまだ100万人近くの潜在患者が存在しており、それらを掘り起こすことが重要になってきている。しかし、健康にあまり関心のない人々や治療の必要性を感じていない人々を肝炎検診の受検からC型肝炎治療へ結びつけることはとても難しいため今回の研究を計画した。

2. 研究の目的

この研究は治療を終了している患者からアンケートや協力を得て掘り起しに有効と思われる因子を抽出し、それをもとに配布物やデジタルコンテンツを作成して外来受診やC型肝炎治療に結びつけることを目的としている。

3. 研究の方法

C型肝炎患者を層別し、アンケートや質問表を基に実際に検診受検や治療開始の支障となる因子を抽出し、さらに実際にその因子の有効性を探る実態調査+仮説検証型の研究として開始した。まずC型肝炎患者を次の4グループに分類した。

- (1) 通院して治療を行っている(Group A)
- (2) 通院しているがいろいろな理由で治療に踏み切れない(Group B)
- (3) 以前より分かっているが不必要と考えて受診していない(Group C)
- (4) 機会がない又は、全く興味がなく検診をしていないため感染自体を知らない(Group D)

そして現在通院中のC型肝炎患者(Group A, Bに相当)を対象に調査を行い、受診行動、治療開始に関わる因子をオリジナルの質問表とSF-8を用いてアンケート形式で抽出した。

具体的にはC型肝炎の判明した契機、その後の病院受診の契機となる因子、治療開始の有無に影響を与えた因子、Group Bに関してはなぜ治療に踏み切れないのかなどである。

またGroup Aに関しては治療開始しているため、その治療中の問題点、治療後のQOL、精神身体的変化などを同時にデータ収集した。

それらのデータを基に説明資料やコンテンツを作成してGroup BからDに相当する対象者に以下の方法でアプローチする予定とした。

アンバサダー方策:最近のC型肝炎治療は副作用が少なく楽になったことを実感している人が多いため、Group Aの中で治療に成功した患者の治療後の体の調子や心境の変化などの実体験を加えた説明資料を作る。特に協力してくれる患者にはアンバサダーになってもらって生の声で周りに普及させる。

オムニチャンネル方策:興味を引くようなWebサイトを作成する。

デジタルコンテンツ方策:健康に無関心でもC型肝炎を感染しているリスクのある人々がよく訪れるようなサイトやファッションピアス、入れ墨などに興味のある人がまず閲覧するページに検診を勧める動画やサイトのリンクを貼る。

4. 研究成果

大阪医科大学附属病院及び大阪医科大学消化器内科関連病院に通院中のC型肝炎患者のリストアップとグループ分けを行なった。特に通院患者はGroup AかBに該当し、新規に掘り起こす予定の患者がGroup C, Group Dとなる。その結果、Group Aに相当する患者は約211名、Group Bに相当する患者は約10名存在していた。

次に、それらの患者に対する実態調査型のアンケートを作成した。アンケート内容は、C型肝炎の判明した契機、その後の病院受診の契機となる因子、治療開始の有無に影響を与えた因子、Group Aに関しては治療中の問題点、また治療後のQOL、精神身体的変化、Group Bに関してはなぜ治療に踏み切れないのか、などの内容を盛り込むようにした。そして、該当病院の倫理委員会に申請し、承認を得たのちにアンケート調査を開始した。

(1) アンケート回収率

対象が約211名存在すると見込んでいたが、治療後に他病院に紹介されたなどで通院が途切れたり、肝細胞癌を含む他の疾患を発病し死亡した症例などが除外されたこと、そして通院間隔が治療終了しているため6ヶ月間隔である患者も多かったため、アンケートの配布と回収に時間がかかった。最終的に得られたアンケートは45名であった(21.3%)。

(2) 結果のまとめ

得られたアンケートの中で解析可能なものは34名であり、男性11名、平均年齢69歳であった。70%以上の患者が肝臓外来に通院中であり、HCV感染の原因は85%が不明、また治療の契機となった理由は74%が主治医に勧められたから、21%が治したかったからであった。開始前の心境としては治療効果、副作用を含めて不安と考えていた患者が7割を占めていた。

治療後の感想としては、94%が“思ったより楽であった”と回答しており、また治療後の体調の変化に関しては“楽になった”が32%、“変わりない”が59%であった。心境の変化に関しては88%の患者が“気持ちが楽になった”と回答していた。1人を除いてほぼ全員がこの治療は未治療の

人にお勧めできる治療であると答えていた。
 これらの結果に関しては、まとめた上で 2019 年に行われた第 43 回日本肝臓学会西部会で一般演題として学会発表を行なった。

(3) デジタルコンテンツの作成

まとめたデータから以下のような C 型肝炎患者向けのパンフレットを作成した。



C型肝炎に対する新しい治療薬が登場して約6年が経過しました。多くの患者さんがその治療法にてC型肝炎を治すことに成功しています。

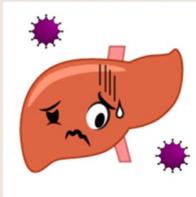
一方で、今までのインターフェロン治療のイメージが残っていることより、新しい薬の副作用や治療効果を心配して治療せずに様子を見ている方も存在しています。

この新しいC型肝炎治療薬がどのようなものなのか、実際に治療を経験した方にご協力いただきその体験や治療後の変化などを調べてみました。その結果を次のページに載せています。これからの治療を受ける方や、まだ治療を行っていない方はぜひ参考にしてみてください。



これからC型肝炎治療を受ける人に対して

C型肝炎ウイルスは感染した状態で放置していると無症状で慢性的に肝臓が悪くなっていき、肝硬変になったり、肝臓にがんができたりする原因になります。一度肝臓がんができると治療しても再発しやすいので、この先のあなたの人生に大きな影響を与えてしまいます。



幸いにも現在のC型肝炎の治療薬は治療効果が非常に優れており、治療の成功率は約96%で、つらい副作用もほとんどありません。少しでも早く治療を行ない、C型肝炎ウイルス感染状態から脱することをお勧めいたします

大阪医科大学 消化器内科
 大阪府高槻市大学町2-7
 072-683-1221

C型肝炎の抗ウイルス治療

実際に治療を受けた方の感想！



以前に、インターフェロン治療はしんどくてあまり効果がないと聞いていたけれど、、、

最近の治療はどんなもの？
 やっぱしんどいの？

今回アンケートに参加していただいた方の内訳になります。

- 男性11名、女性24名、平均年齢69歳
- 治療からアンケートまでの期間の平均は10.48日
- 74%の方が治療前は当院に通院中
- 同じく74%の方が主治医に勧められて治療を開始していました
- 治療前の心境としては約60%の方が薬の副作用や治療効果に不安を抱えていました。

実際に治療を経験した34名の方にご協力いただきその体験や治療後の変化などの生の声を集めてみました。その結果を右のページに載せています。一部の方で“かゆみ”などが出た方がおられますが、ほとんどが一時的なものでした。

ほぼ全ての方がウイルスを消すことに成功しています。

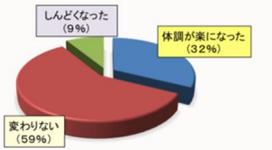
大部分の方が治療後は“気持ちが楽になった”と感じており、“治療自体も思ったより楽であった”と答えていました。

治療後のC型肝炎患者の体調、心境の変化

現在のC型肝炎治療薬の成功率は非常に高く、実際に当院で治療された方の約96%がC型肝炎ウイルスを消すことに成功しています。またこの治療がはじまって現在で約6年が経ちますが、再発した方はほとんどおられません

C型肝炎ウイルスを治療したあとの体調の変化:

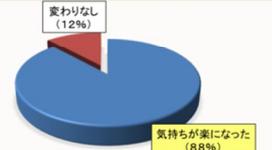
59%が治療前と変わりがなく、32%の方は体調が楽になりました。一方でしんどくなったと回答した患者が9%だけでした。しんどくなった理由ですが、薬の副作用でかゆみや湿疹がでて、それが落ち着くまで長引いたことが考えられます。



C型肝炎ウイルスを治療したあとの心境の変化:

88%の方がウイルスが消えて「気持ちが楽になった」と回答していました。

残りの方も「変わりなし」であり、心境に関しては悪い方向になった方は一人も出ておられません。



治療後の感想:

痒みなどが出た少数の方を除いてほぼ全ての人が「治療は思ったよりも楽であった」と答えていました。

また97%の方が「この治療を受けることを勧めたい」と回答していました。



今回のアンケート対象者がほとんどかかりつけの患者のみであったことにより、HCV 治療を受けるきっかけとなった因子や HCV 検査を受検するきっかけとなった因子、要因などを見つけて出すことはできなかった。

従って、HCV 患者を拾い上げるコンテンツを作成できず、新しく C 型肝炎治療を受ける人、C 型肝炎治療を受けるかどうか迷っている人に対する内容のパンフレットとした。アンケートの回

収に時間がかかったため、データがまとまってからの時間があまりなく、現在はパンフレットを作成した段階であり、今後はそれを大阪医科大学附属病院の肝疾患センターで配布したり、ホームページにデジタルパンフレットとして掲載する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 津田泰宏、安岡秀高、西川知宏、中村 憲、土本雄亮、朝井 章、福西新弥、樋口和秀
2. 発表標題 C型肝炎患者におけるDAA治療後のトランスアミナーゼ値異常と予後との関連
3. 学会等名 第54回日本肝臓学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津田泰宏、岡本紀夫、松井将太、西川知宏、大濱日出子、土本雄亮、朝井章、福西新弥、樋口和秀
2. 発表標題 DAA治療後のC型肝炎患者の体調、心境の変化
3. 学会等名 第43回日本肝臓学会西部会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	朝井 章 (Asai Akira) (30622146)	大阪医科大学・医学部・准教授 (34401)	